

芦平附近には、オオアキギリ、キツリフネ、テンニンソウ、サンインヒキオコシ、クロバナヒキオコシ、イワタバコ等が多く、ケヤキの樹皮にオシマクジテンダガが多く着生している。

重知上人の遺蹟は有孔虫石灰岩の小さい洞窟でこの石灰岩上にはビロウドシタ、クマラビ、イヌフラビの様な羊齒類やコマユミ、ハイイスカヤ、チャボカヤ、カマツカ、マユミ、ママホロシ、アズキナシ、ケヤキ等の植物が繁茂している。ビロウドシタは嶺北では最初の採集で同植物の北限ではないかと思う。

(滝 芳 奉 記)

敦賀市西方嶽 サザエ岳の植 物調査報告

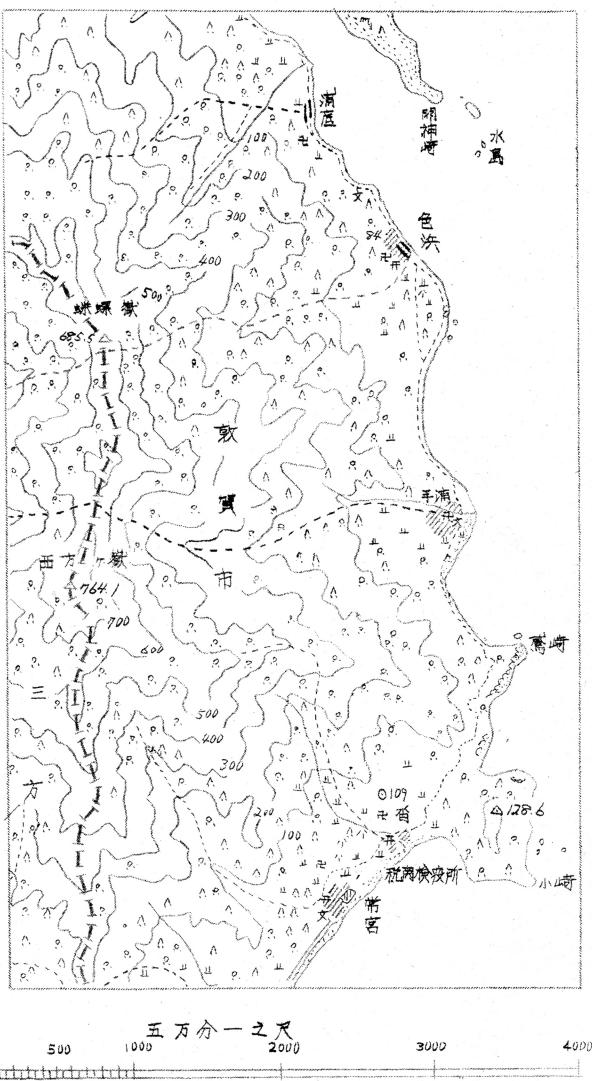
昭和三十年十一月三日、敦賀市の本比氏外10名の方々と共に敦賀市サザエ岳、西方岳の植物を調査する機会に恵まれましたので以下簡単に報告します。

敦賀駅から自動車で常宮に行き常宮から舟で渕底に行く。渕底からすサザエ岳に登り西方岳を経て常宮に下山。自動車で敦賀駅に帰り散会した。

敦賀から常宮までの海岸には、ハゼ、ニガキ、オムノキ、シヤシマンボ等を見る。

常宮神社の社叢はシイ、タブノキ、等の常緑闊葉樹を中心としたもので主な植物は、

シイ、タブノキ、ヤブニクケイ、モチノキ、ヤブツバキ、シロタモ、木アカマツ、クロマツ、ハゼ、ケヤキ、エノキ、等の喬木、ティカカズラ、



今庄図幅

フジ, イタビカズラ, ツタウルシ, ナツスター, フユスター, 等の蔓植物がよく茂る。またヒサカキ, カスコウジ, ススピトハギ, ムラサキシキブ, ハナタケ, イヌタデ, イタドリ, ヨメナ, イノコヅチ, オオカナワラビ, フモトシダ, イノテ, ベニシタ, ヤマイタチシダ, ミゾシタ, タニイズフラビ, カブソテツ, 等の下草を見る。

浦底の海岸には、ハマスケ, ハマエンドウ, ハマニンニク, ハマヒルガオ, ヨシ, アキタミ, ヒトモトススキを見、水田にはイスノヒケ, キカシタサ, タヌキモ, ヤナギタデを畑地脇傍には、トダシバ, ススキ, アキノケシ, ヤマイ, オオアレチノギク, ヒメムカシヨモギ等を見る。

海岸からサザエ岳登山直路を登る。山麓に見られるものに、

ゴンズイ, シマシャンホ, ヤマモモ, タブノキ, コマユミ, ミツバアケビ, ヌルテ, アセビ, ヒサカキ, サカキ, シキミ, ヒメヤシマフシ, イソノキ, ネズキ, ネズミサシ, ヤマホウシ, リョウブ, マルバマンサク, クロモジ, ハゼ, コシダ, ウラジロ, コハシゴシダ, ホラシノフ等で常緑樹が多い。

標高200mから300m位で見られる植物には、

アオハダ, リョウブ, アセビ, ソヨゴ, アカガシ, ドウダンツツジ, マルバアオダモ, ネズキ, オオウラジロノキ, ウラジロノキ, マルバマンサク, タムシバ, イモノキ, コシアラ, ネズミサシ, スギ, ヤマボウシ, ウラジロガシ, アサマツケ, イヌツケ, ウラジロ, コシダ, がある。ドウダンツツジ, アサマツケ, アカガシが特に多い。

300m位でミズナラ, フナノキを見る。頂上に進むにつれて花崗岩が露出し奇岩が多く、展望は極めてよい。クロソヨコ, アカガシ, フナ, ザワフタギ, アセビ, ドウダンツツジ, イモノキが多くなり、イモノキ(黄) ドウダンツツジ(紅) ヤマボウシ(紅) の紅葉もまた美しい。

サザエ岳から峯伝いに西方岳に登る。この道にも前記の植物を見る。風が強いためか茎がよく屈曲している。谷間に相当多數のスナ, ミズナラがあり、樹下陰地には、モミヂ, ハクマ, メンマ, ヤマソテツ, シラネフラビ, ユキササ, エビネ, ミヤマカタバミ, タジマタムラソウ, マルバフユイチゴが多い。頂上並い所に小さい池がある。エゴノキ, ウリハタカエテ, ハツチワカエテ, コハウチワカエテ, がよく見られ、樹下にリョウメンシダ, シケチシダ, ジュウモンジシダ, タニウツギ, ミヤマイタチシダが多い。

西方岳の頂上(220m)をきわめて下山の途につく。

寒宮に近い所でハナセキショウを見る。寒下で第三回目の採集である。

山麓には、シイ, タブノキ, シロタモ, ヤマモモ, シマシャンホ, カスコウジ等の常緑樹200m以上にはドウダンツツジ, リョウブ, フナ, ミズナラ等の落葉樹と、

アカガシ, ヒサカキ, アサマツケ, クロソヨコ, ソヨゴ, ウラジロガシ等の常緑樹とが見生している。

アサマツケ、ドウダンツツジが特に多く、ヤマモモは附近の立石と共に尤限產地である。
附記 土地の人の話によるとヤマモモに2種あるとの事である。

- (1) 果実が小形で赤い ----- ヤマモモ
(2) 果実が大形で白味がかつた赤 ----- シロモモ

(堀 芳 齊 記)

高浜方面海產物採集記

8月12日 日 晴天

若狭湾を東から西へと四度目の総合採集会である。敦賀港を振り出しに、幡神、大島、そして此の度の高浜と、目ぼしい要所を順々におして来て、とうとう黒堀の高浜に達してしまったので、一同がうち揃って、小浜湾に出掛ける採集会はこれが最後であろう。

午前5時40分乗車、海產動物採集の常連は、田尻、伊藤の両氏と私の三人である。リュックと胴糸とのききの揃いのいでたちも勇ましい。三人が三人とも宝物でも採りに行くようだ、いとも美しい夢を描いては何時も出掛ける。採集同人はみんなこんな気持なんだろうか。

高浜について、内海湾音海行きを計画していたのだが、便船の都合もつかず、こゝ高浜を根據地として、二泊三日の採集を決心した。

昨年は和田の海水浴場で、キンカクラケ、カツオノエボシ、ハナデンシヤ等の珍品を採集して得意であったが、今年も又何か珍奇なものを見てこんで心をときめかしている。採しあぐんでいるものが見つかった時、珍しいものが発見できた時の歓喜は、そのことの経験ある者のみの語りぐさである。

旅装を解くや否や海に飛び出す、重一つ無い土用の青空に高く、浜一面に干網が海の涼風になびいている。

「干網浜に高くして、かもめは波に低く飛ぶ」

首痴の私が思わずこんなことを口ずさんでしまった。全くその歌のようだ光景で、越前若狭と他の海岸には余り見ない風景である。浜小屋の日陰で網の縫いに余念のない老翁に説しかけた。

「暑いのにようお精が出ますね、並須何がとれるんですか」

「いや、さつはりですがね」

京都弁に近い漁師の語が耳に餘る。